製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

1, 化学物質等及び会社情報

製品名　(保護基用)　2-クロロアセトフェノン　2-Chloroacetophenone
整理番号　28030
作成日　2000 年 10 月 2 日
改訂日　2011 年 7 月 23 日

会社名　純正化学株式会社
本社住所　〒103-0023　東京都中央区日本橋本町 4-4-16
●連絡先及び緊急連絡先 (MSDS 作成担当)
担当部門　営業本部　学術担当
担当住所　〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1－6
電話番号　048-988-3621　FAX 番号 048-988-6689
E-mail: shiyaku-t@junsei.co.jp
http://www.junsei.co.jp

用途と使用上の注意: 本製品は試薬ですので、試験研究用以外には使用しないで下さい。

2, 危険有害性の要約

【GHS 分類】 NITE 分類(ID=693)

物理化学的危険性

可燃性固体	:区分外
自然発火性固体	:区分外

健康に対する有害性

急性毒性 経口	:区分3
皮膚腐食性／刺激性	:区分2
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	:区分1
皮膚感作性	:区分1
発がん性	:区分外
特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)	:区分2 (呼吸器系)、区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	:区分1 (肺)

(注) 危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHS ラベル要素】

【GHS 絵表示】

【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

飲み込むと有毒
吸入すると生命に危険
皮膚刺激
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
臓器（神経系、肺、気管支）の障害
長期又は反復ばく露による臓器（肺）の障害

【注意書】

【安全対策】

・使用前に取扱説明書を入手する。
・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
・取扱い後はよく手を洗う。
・汚染された作業衣は作業場から出さない。
・個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避ける。
・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
・換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用する。
・粉じんの吸入を避ける。

【応急措置】

・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗う。
・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。
・衣類にかかった場合、汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
・飲み込んだ場合、口をすすぐ。無理に吐かせない。
・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させる。
・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡する。
・暴露又は暴露の懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受ける。
・漏洩物を回収する。

【保管】

・施錠して保管する。

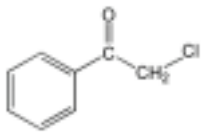
【廃棄】

・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

3，組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：単一製品
化学名：2-クロロアセトフェノン
別名：　フェナシルクロリド　　Phenacyl chloride
化学式：C_8H_7ClO
CAS No：532-27-4
EINECS No：208-531-1
含有量：99%以上
化審法：3-1236、3-1241

安衛法:公表
構造式



4, 応急措置

○ 吸入した場合:新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。
○ 皮膚に付着した場合:汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。
○ 眼に入った場合:先ず数分間、多量の水で洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。医師に連れて行く。
○ 飲み込んだ場合:意識あるなら、口をすすぐ。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。
予想される急性症状及び遅発性症状:
吸入: 粉じん、蒸気及びミストは肺、気道上部を刺激する。
ばく露の症状は灼熱感、咳、息切れ、喉頭炎、息苦しさ、頭痛、吐き気、嘔吐。
鼻刺激感、鼻漏、咳、くしゃみ、胸部絞扼感、舌・口腔の灼熱感、金属味、流 涎、吐き気、嘔吐、声門痙攣などが見られることが多い。 これらはばく露後数週 間続くことがある。
密閉された場所でばく露されると、気管支痙攣、気管支肺炎、肺水腫などが現れ、 まれに死亡することがある。
遅れて現れる症状:胸部灼熱感、咳、頭痛、息苦しさ、吐き気、息切れ、嘔吐、喘鳴。
皮膚: 皮膚吸収は有害であり、灼熱感、紅斑、が一般に見られ、皮膚炎を起こす。高濃度では化学損傷を引き起こすことがある。 ガスが衣服や身体に付着すると、後まで中毒症状を起こしやすいので注意すること。
眼: 粘膜を刺激し、 眼の灼熱感、疼痛、流涙などが生じ、通常 30 分位で沈静化する。
眼瞼痙攣、発赤、腫脹が 1〜2 日間みられることもある。
高濃度では角膜剥離を伴う化学損傷を引き起こすことがある。
発赤。痛み、眼のかすみ、永久的な部分視力喪失。
催涙作用が強く 0.3mg/m3 で涙が出る。高濃度では疼痛感を受け一時的な視力障害を受ける。
経口摂取:意識喪失、反射作用喪失。
最も重要な徴候及び症状: 高濃度で暴露すると、意識を喪失することがある。肺水腫の症状は 2〜3 時間経過するまで現われない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項: データなし
医師に対する特別な注意事項: データなし

5, 火災時の措置

消火剤:
水噴霧、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂。
使ってはならない消化剤:
データなし:
消火方法:
周辺火災の場合、出来る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。
着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消

火に当たっては保護具を着用する。
特有の危険有害性：火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法：データなし
消火を行う者の保護のために着用する保護具：防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6，漏出時の措置
人体に対する注意事項
暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。
保護具及び緊急時措置
「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用
環境に対する注意事項
上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。
回収、中和
漏出物をふた付の容器に掃き集め、安全な場所に移す。

7，取扱い及び保管上の注意
取扱い
－火気注意
－取扱い後はよく手を洗うこと。
－蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、又、眼に入れないように
局所排気したり、保護具を着用する。
－作業場を換気する。
－作業中は飲食、喫煙をしない。
－強酸化剤との接触に注意する。
保管
－火気厳禁。
－密栓して換気のよい冷暗所に施錠保管する。
－強酸化剤から離しておく。

8，暴露防止及び保護措置
通気：換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。
管理濃度（労働安全衛生法）：設定されていない。
許容濃度
日本産業衛生学会(2010 年度)：設定されていない
ACGIH(2010 年)： TLV-TWA 0.05ppm
設備対策
局所排気装置、洗顔器と安全シャワーを設置
保護具
－ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。
この物質を扱う時はいつも適切な陽圧空気供給式呼吸器を着用すること。
－不浸透性保護手袋と保護衣。
－化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。
安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、顔面シールドを着用すること。

9, 物理的及び化学的性質

外観: 淡黄色固体
臭い: データなし
pH: データなし
融点: 54-56℃
沸点: 244-245℃
引火点: 118℃ (密閉式)
爆発範囲の上限･下限 データなし
蒸気圧: 0.7Pa (20℃)
蒸気密度 (空気＝1): 5.3
比重: 1.324g/cm3
溶解度: 水に不溶 [1.64 g/100 ml(25℃)]
n-オクタノール／水分配係数: log Pow = 2.08
自然発火温度: データなし
分解温度: 248℃

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性: 加熱すると分解して腐食性のガス (塩化水素) を生成。強酸化剤又は還元剤と接触又は混合する場合、反応が 起こり、主として塩化水素からなる有毒で腐食性の蒸気が生じる。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など): 加熱
混触不可物質: 塩基、アミン、アルコールとの接触不可。
危険な分解生成物: 燃焼すると、一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素ガスが生成する。
危険な重合反応:しない

11, 有害性情報

急性毒性 経口
ラット LD50=127mg/kg (ACGIH (7th, 2001)) に基づき, 区分 3 とした。飲み込むと有毒 (区分3)
急性毒性 経皮
データなし
急性毒性 吸入:ガス
GHS の定義による固体である。
急性毒性 吸入:蒸気
データなし
急性毒性 吸入:粉塵ミスト
データなし
皮膚腐食性／刺激性
ヒトで化学火傷がみられ (IRIS (1981)), 動物で紅斑, 浮腫および剥離が報告 (ACGIH (2001)) されていることに基づき, 区分 2 とした。皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷性／刺激性
動物試験で不可逆性の severe な角膜障害が見られ, 紅彩炎, 結膜炎, 眼瞼炎などが見られるとの記載 (ACGIH (2001)) に基づき, 区分 1 とした。
重篤な眼の損傷 (区分 1)
呼吸器感作性
データなし

皮膚感作性

ヒトで皮膚感作性ありとの記載 (IRIS (1991), ACGIH (2001)) があり, 動物でも皮膚感作性が認められている (ACGIH (2001)) ことに基づき, 区分 1 とした。

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分 1)

生殖細胞変異原性

データ不足

発がん性

ACGIH で A4 と分類されている (ACGIH (2010)) ことに基づき, 区分外とした。

生殖毒性

データなし

特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)

ヒトで肺水腫, 鼻・喉への刺激があり, 咳が見られ喉頭気管気管支炎を発症し, 呼吸困難も見られたが, これらのほとんどの症状は曝露中止により回復した (IRIS (1991), ACGIH (7th, 2001), RTECS (2004)) ことから, 区分 2 (呼吸器系) とした。

臓器(呼吸器系)の障害のおそれ (区分2)

ヒトで倦怠感, し眠, 失神などの症状が見られたとの記載 (IRIS (1991)) に基づき, 区分 3 (麻酔作用) とした。

(麻酔作用) 眠気またはめまいのおそれ (区分3)

特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)

ヒトで肺のうっ血と水腫が記載されている (ACGIH (7th, 2001)) ことに基づき, 区分 1 (肺) とした。

長期または反復暴露による臓器(肺)の障害 (区分1)

吸引性呼吸器有害性

データなし

12, 環境影響情報

－生態毒性

水性環境急性有害性

データなし

水性環境慢性有害性

データなし

(化審法既存化学物質の安全性点検) (平成 13 年 5 月 10 日)

－分解性：未試験

－蓄積性：低濃縮性 (分配係数試験による)

13, 廃棄上の注意

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実におこなう。

国連番号：1697 (固体)、3416 (液体)

品名：クロロアセトフェノン (固体)、クロロアセトフェノン (液体)

国連分類： 6.1 (毒物)

容器等級：II
海洋汚染物質：非該当
緊急時応急措置指針番号 153

15, 適用法令

消防法：非該当
毒劇法：非該当
ＰＲＴＲ法：非該当
労働安全衛生法：安衛法通知有害物（施行令、別表第九の番号）：117 （オメガ－クロロアセトフェノン）
船舶安全法：危規則第 2 条危険物　等級 6.1 毒物
航空法：施行規則第 194 条危険物毒物

16, その他の情報

参考文献

－メルクインデックス14版 2115
－ＳＴＮインターナショナル　RTECS ファイル　AQUIRE ファイル
－危険物船舶運送及び貯蔵規則（十四訂版）国土交通省海事局検査測度課（海文堂）
－改訂第3版　緊急時応急措置指針（日本規格協会）
－NITE　GHS 分類データ　(ID=693)
－NITE　GHS 分類マニュアル（H18.2.10 版）
－International Chemical Safety Cards (ICSC) No.　0128
－TOXNET - Databases on toxicology, hazardous chemicals, environmental health, and toxic releases.
－製品安全データシートの作成指針（改訂第2版）（（社）日本化学工業協会）
－化学物質総合情報提供システム（CHRIP）（ＮＩＴＥ）　http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html

---

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また、記載物性値は文献値であり、規格値ではありません。
全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途, 用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。